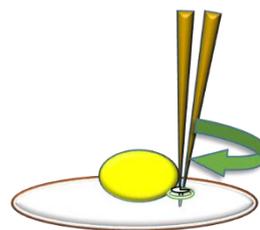


Web 版

地協ニュース

ときたまご

令和4年8月22日（金）号
山形市教育委員会 社会教育青少年課発行



第1回学校運営協議会の様子 ～南沼原小学校・第一中学校～

6月、7月と多くの学校で今年度第1回となる学校運営協議会が開かれました。その中で二つの学校を紹介します。

1校目は7月6日（水）の南沼原小学校です。今年度CS導入の学校で、様々な準備をされてきたようです。委員に対して本課職員が概要の説明を行いました。また、会議の前には学習参観の時間を取っていらっしゃいました。PTAの方々にとっても久々の学習参観で、喜びの声が会議にも反映していました。また、学校運営方針について、金子校長先生の「県内一の児童数を誇る本校は、大規模校ならではの良さがある。商業地・住宅地・農地がある面白い地域の良さを活かしたい。また、豊富な地域の人材を活用したい」という言葉に、委員からは「地域が学校とどうかかわっていくか考えたい」、「同窓会や教育後援会でのかかわりの活性化を図りたい」などのプラス思考の意見が述べられたのちに承認されました。また、「多くの人とのかかわりができるという良さの反面、ネット環境への配慮が必要」との指摘がありました。また、11月11日（金）の第2回



は会長と相談したテーマでの「熟議」を予定しているとのことです。会議後には新校舎見学が行われ、委員の方々は目を輝かせると共に、業者の方へたくさんの質問をされていました。新校舎で目を輝かせて学ぶ子どもたちの姿を思い浮かべていらっしゃるようでした。

2校目は7月15日（金）に開催した第一中学校です。昨年度の2月にCSを導入し、3月に第1回が開かれましたが、コロナ禍によって本課職員の出席がかなわなかったために、要請を受けて今年度の第1回に出席させていただきました。6月より地協推進員を委嘱しています。田中校長先生の「委員の皆さんは一中の共同経営者」という言葉が

実に印象的でした。協議が次第に「熟議」へと発展していったように感じたのが、「山形一中における地域学校協働活動について」意見が交わされたところでした。学校側から現状と課題が提示され、そこに委員の方々から様々なアイデアが加えられました。話題となった地協活動の実現を願っています。

職員研修で地域活動を学ぶ ～高瀬小学校～

7月25日（月）9:00～校長先生、教頭先生の計画のもと、地協推進員小林氏のコーディネートによる職員研修が高瀬小で開催されました。昨年度に続く第2弾となり、取材させていただきました。講師は「鳶の木川原に集う会」の事務局長の酒井定幸さんと「株式会社24-7」代表取締役の海谷真彦さんの二人です。酒井さんは河川愛護団体を20年続け、河川清掃や森づくり、東屋づくり、そしてあの「高瀬川の鯉のぼり」を続けていらっしゃる方です。



20年ぶりに高瀬に戻った海谷さんはドッグランとキッチンカーをオープンさせ、クラウドファンディングを活用してドッグランのバージョンアップを行いました。また、空き家のリノベーションも行っています。こうした建設には確固たる信念と地域復興という理由がありました。この研修で、高瀬小の先生方は地協活動の様々な可能性を模索し、大変有意義なものとなったようです。



暑い中の研修会参加に感謝 ～市教委主催の教職員研修～

8月2日（火）14:00～霞城公民館講堂で教職員を対象とした「地域とともにある学校づくり研修会」を開催しました。CSと地協に関する実践例やアイデアの説明の後、天童市立天童中部小学校の前校長である大谷敦司先生（現社会教育推進員）による「未来を生きる子どもたちを“ともに・共に”育む」という講話でした。